

製品名: PKD2 (リン酸化Ser812) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05275**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	PKD2
別名	PKD2; Polycystin-2; Autosomal dominant polycystic kidney disease type II protein; Polycystic kidney disease 2 protein; Polycystwin; R48321
遺伝子 ID	5311.0
SwissProt ID	Q13563
免疫原	抗血清は、Ser812 のリン酸化部位周辺のヒト PKD2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 778-827

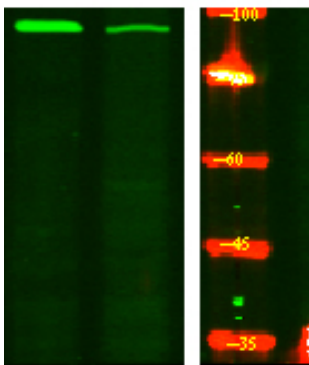
背景

ポリシスチン 2、一過性受容体電位陽イオンチャンネル (PKD2) ホモサピエンス この遺伝子はポリシスチンタンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、カルシウム透過性陽イオンチャンネルとして機能する複数回膜貫通型タンパク質であり、腎上皮細胞におけるカルシウム輸送とカルシウムシグナル伝達に関与しています。このタンパク質はポリシスチン 1 と相互作用し、尿細管形成に関与する共通シグナル伝達カスケードのパートナーである可能性があります。この遺伝子の変異は、常染色体優性多発性嚢胞腎 2 型と関連しています。[RefSeq 提供、2011 年 3 月]、疾患: PKD2 の欠陥は、常染色体優性 2 型多発性嚢胞腎 (ADPKD2) の原因です[MIM:173900]。ADPKD2 は、ADPKD 症例の約 15%を占めます。ADPKD は、約 400 人から 1000 人に 1 人が罹患する一般的な遺伝性疾患です。ADPKD は、両腎臓における嚢胞の進行性形成と肥大を特徴とし、典型的には成人期に末期腎不全へと至ります。嚢胞は肝臓や他の臓器にも発生します。ADPKD2 は臨床的には ADPKD1 よりも軽度ですが、全体的な平均余命に悪影響を及ぼします。、ドメイン: C 末端コイルドコイルドメインはカルシウムと結合し、カルシウム誘導性のコンフォメーション変化を起こします。このドメインは、オリゴマー形成および PKD1 との相互作用に関与しています。、機能: カルシウム透過性陽イオンチャンネルとして機能します。 PKD1 と PKD2 は、正常な尿細管形成に必要な共通のシグナル伝達経路を介して機能する可能性があります。、オンライン情報: ポリシスチン 2 - C 型レクチンではない、類似性: ポリシスチンファミリーに属する。、類似性: 1 つの EF ハンドドメインを含む。、サブユニット: ホモオリゴマーを形成する。PKD1 と相互作用する。PKD1 の安定発現には PKD2 の存在が必要である。CD2AP と相互作用する。、組織特異性: 卵巣、胎児および成人の腎臓、精巣、小腸で強く発現する。末梢白血球では検出されない。、

研究分野

-

画像データ



LPS 処理または未処理の HeLa 細胞を、一次抗体を 1:1000 希釈でウェスタンブロット分析した。二次抗体は 1:10000 希釈で行った。